上野原縄文の森 第43回企画展

新発見！ かごしまの遺跡2015 ～発掘速報展～

企画展データファイル 43

2015.7.17 ～ 2015.11.15

■ お問い合わせ
（公財）鹿児島県文化振興財団
上野原縄文の森
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森1-1
TEL 0995-48-5701 FAX 0995-48-5704
URL http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail uenohara@jomon-no-mori.jp

平成26年度に発掘調査や整理作業を行った32遺跡及び報告書を刊行した5遺跡の中から最新の情報を紹介しています。

今回の企画展では，近代の貴重な産業遺産として大きな話題となった金山水車跡や立小野堀遺跡から出土した日本最古級の「青銅製鈴」など，注目される資料を展示します。

また，今回の展示では，特に注目される遺跡について新しい時代から紹介するなど，歴史の流れに主眼を置いた展示構成を行っています。

近代の調査成果

【金山水車跡・精錬所跡（南九州市）】

明治の終わりから昭和の初めにかけて動いていた「宮内鉱山轟製錬所跡」です。直線距離で約8km離れた赤石鉱山から荷馬車で鉱石を運び，麓川の水力で水車を回して鉄製の杵先で鉱石を細かく砕きました。また，金を取り出す精錬作業には坩堝と呼ばれる容器が使われていました。

宮内鉱山轟製錬所の復元図（一部，県立埋蔵文化財センター 今村敏照 氏 作成）

水車坑

坩堝

近世の調査成果

【中津野遺跡（南さつま市）】

南北方向に並ぶ杭列が発見されました。加工された木と自然の木を組み合わせた杭列で，堤防や道路などの基礎部分と考えられます。大規模な土木工事が行われたことを物語る遺構です。

陶磁器や古銭（寛永通宝）等の遺物から，江戸時代の遺構である可能性が高いと考えられます。

発見された杭列

保管中の杭等

展示資料データ	遺跡数	展示資料数	展示パネル数
	35	225（一括展示含む。）	158

縄文時代の調査成果

【京の塚遺跡（大崎町ほか）】

縄文時代前期末～中期初め頃（約5,000年前）のものと考えられる100基を超える土坑群と，土器や石器が多量に見つかりました。土器の多くは，深浦式土器です。

南九州では，この時期の遺跡の調査例が少なく，今回の発見は今後の研究資料として期待されています。

深浦式土器など

旧石器時代の調査成果

【鞍曲遺跡（南九州市）】

旧石器時代の調理道具（ナイフ形石器・台形石器）や狩りの道具（剥片尖頭器）のほか，これらを製作した場所が見つかりました。当時の狩猟生活の様子や石器を作る技術などを知ることができる貴重な資料です。

見つかった石器

河口コレクション

河口コレクションとは，長年，鹿児島県の考古学界をリードしてきた考古学者，河口貞徳氏（1909～2011）が調査した遺跡の記録や，土器や石器などの考古資料のことです。

河口氏は昭和20年代から約60年間にわたり，多くの遺跡を発掘し，遺物の時期や生活内容の解明を進めてきました。

その貴重な資料は，御遺族の御好意によりまとめて県立埋蔵文化財センターへ河口コレクションとして寄贈していただきました。

平成26年度は，上加世田遺跡（南さつま市）の出土の土器接合・復元を行いました。

接合・復元された上加世田式土器

【次回企画展のお知らせ】 第44回企画展 蘇るSHOKU Ⅱ～色と飾りに込めた想い～
平成27年11月27日（金）～平成28年3月21日（月）

中世の調査成果

【天神段遺跡（大崎町）】

平成19年の調査で，中世（鎌倉時代初め頃）の土坑墓１号から，青磁や白磁などの中国産の美しい陶磁器や，入れ子状態になった滑石製石鍋，日本で作られた鏡など多く副葬品が発見されました。

平成26年度に発掘調査報告書が刊行され，今回の展示では，土坑墓１～３，５，７号の副葬品を公開しています。

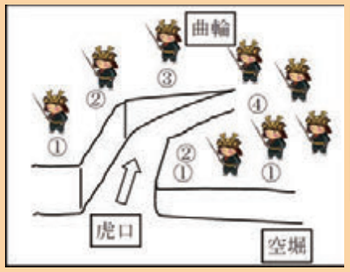
土坑墓１号副葬品

左：土坑墓５号副葬品
右：土坑墓７号副葬品

土坑墓１号

【志布志城跡（志布志市）】

志布志市教育委員会が発掘調査を行いました。城の中心部（内城）である大野久尾の曲輪※1で新たな出入口（虎口※2）が発見されました。



虎口の守りの工夫

虎口

空堀を通る兵は，曲輪の上（①）から攻撃を受けます。虎口に入ると横から（②），坂道のつきあたり（③）からも攻撃されます。曲輪（④）では大勢の兵が，坂道の出口で待ちかまえます。

写真・図：志布志市教育委員会

※1　城や砦の周囲にめぐらして築いた石の囲い
※2　「狭い道」や「狭い口」といった意味で，「小口」とも書きます。

古墳の調査成果

【立小野堀遺跡（鹿屋市）】

５世紀前半～６世紀前半頃の南九州独特の墓である地下式横穴墓から，日本で最古級の鈴が10点発見されました。

発見されたのは，鈴を連ねた馬具である「三環鈴」から転用したとみられる大型の鈴２点，小型の鈴８点です。２基の地下式横穴墓からそれぞれ大型１点，小型４点が１セットとなって発見されました。

最古級の鈴が一遺跡から多く見つかる例は今までになく，貴重な発見です。

148号墓玄室内の人骨と鈴

墓で発見された鈴
<展示 10/31 ～ 11/15>

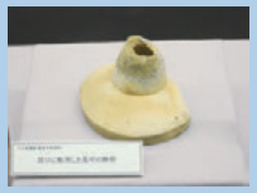
立小野堀遺跡の出土遺物

【川久保遺跡（鹿屋市）】

約1,400年前の鍛冶工房を含んだ集落跡が発見されました。２軒の工房跡から見つかった鍛造剥片※の大きさから，大型と小型の鉄製品をつくっていたことがわかりました。

また，工房跡の周辺からは，高坏の脚部を転用した珍しい羽口も発見されました。

工房跡



高坏の脚部を転用した羽口

※　鉄を火に入れて柔らかくし，叩いて加工する際に飛び散る細かい鉄片

古代の調査成果

【里町遺跡（伊佐市）】

平安時代の土師器と呼ばれる素焼きの器が多く見つかりました。

高台（碗などの底にある輪状の台）の部分を赤色の粘土で作ったものや，内面に煤を染みこませて黒く仕上げたものもあります。特に，赤色の高台をつけた土師器は，伊佐・姶良地方で多く見つかっています。

里町遺跡の出土遺物

【敷領遺跡（指宿市）】

指宿市教育委員会が発掘調査を行い，平地式建物遺構が１基発見されました。西暦874年３月25日（貞観16年３月４日）の開聞岳噴火で，この地域は火山災害を受けていました。

建物内からは，台所であるカマドや石組み炉に置かれた甕が火山灰にパックされた状態で見つかりました。当時の生活を知る上で貴重な遺跡です。

敷領遺跡の出土遺物

指宿市教育委員会

弥生時代の調査成果

【田原迫ノ上遺跡（鹿屋市）】

約2,000年前の大きな集落跡が発見されました。

竪穴住居跡の中からは，山ノ口式土器の甕や壺の破片が多く見つかりました。それらの接合・復元作業を行ったところ，多くの土器がほぼ完全な形で復元できました。今回の展示では，復元された山ノ口式土器を展示しています。

大型の建物跡

復元された山ノ口式土器

【永吉天神段遺跡（大崎町）】

約2,100年前の墓地が発見されました。墓から県内最古で，国内でも最も古い可能性の高い鉄鏃が出土しました。これらの鉄鏃は，副葬品ではなく被葬者に突き刺さっていた可能性があります。

県内最古の鉄鏃
<展示 7/17 ～ 8/14>

円形周溝墓と土坑墓

また，小高い丘の最も高いところに１基の円形周溝墓がつくられていました。直径は約8mで，中心部には埋葬場所とみられる細長い掘り込みが確認されました。その円形周溝墓を中心にして，多くの土坑墓がつくられていました。

円形周溝墓に眠る人は，この集落で最も権力をもった人ではないかと考えられます。